

各種サウンディング技術の液状化調査手法としての適用性に関する研究委員会
WG3：静的貫入試験 打合せ

平成26年度第2回 議事録

日時	平成26年10月7日（火） 10:00～11:50			場所	地盤工学会 会長室			
リーダー	菊池 喜昭	○	幹事	平林 弘	×	委員	國生 剛治	×
委員	後藤 政昭	×	委員	須々田 幸治	○	委員	高田 徹	○
委員	谷本 俊輔	○	委員	西村 真二	×	委員	宮坂 亨明	×
委員	室山 拓生	×	委員	利藤 房男	○	委員	岡 信太郎	○
委員	神宮司 元治	×						

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席

配付資料

- 資料1 香取市佐原河川敷緑地 現地実験 基準ボーリング等結果
- 資料2 ボーリング、土質試験結果による液状化判定結果
- 資料3 CPT試験結果（地盤試験所）
- 資料4 CPT試験結果（千代田工営、ソイルアンドロック）
- 資料5 委員会報告書 目次（案）
- 資料6 報告書フォーマット（案）

議事

1. 資料1,2は特に意見なし（資料説明のみ）
2. 資料3,4について
 - ・千代田工営の結果の内、 R_L 及び F_L の値が他社のものより、かなり大きい。データの計算等、確認が必要。また、他社のデータは削除する。
 - ・ ΔR_L の整理は層厚がかかっているので、 M 値からのものとデータの細かいCPTのものを直接比較できない。このため、 ΔR_L を層厚で割った、下記の値で取りまとめる。

$$\Delta R_L / dz = (1 - F_L) \cdot (10 - 0.5z)$$
 - ・ R_L の比較は、 M 値から求めたものだけでなく、繰返し三軸試験とも比較する→利藤委員の方で、 R_L の図に加える。
 - ・基準ボーリングでは、0.5mピッチで R_L を算定しているが、1mピッチとして計算した場合、どの程度変化するか確認したい→利藤委員の方で確認する。
 - ・地盤試験所が使用している密度は、道路橋示方書で設定している値(17kN/m³)をまず設定し、CPT結果から求められる土質性状に合わせ再設定している（ルーチンを3回繰り返して計算している）。
 - ・今回実施したCPTの結果は、 M 値、粒度から推定した結果と整合性が良い。粘性土の薄層や、硬くなっている箇所など良くとらえられている。
 - ・CPTの結果から液状化判定した結果が、 M 値からの結果より安全側になっているという事が出来ないか。

- ・次回委員会に向けたCPT結果の取りまとめは、岡委員中心で行う。3社の結果を横並びでみられるようにする。また、今回のワーキングの結果を受けたデータ修正を宮坂委員、後藤委員の方で対応していただき、岡委員の方に送付する。また、各社のCPTの仕様の違いを確認するために、カタログの方も、岡委員の方に送付する。

3. 資料5,6について

- ・委員会報告書(案)の2章と3章はひとまとめにした方がよい。また、論文リストと論文の要旨は、巻末資料とした方がよい。
- ・5章のまとめは、5章本研究の成果、6章今後の課題と分けて記載する。「本研究の成果」には、既存資料収集にもとづいた各種試験の適用性、香取現地実験にもとづいた適用性の両者を含めた、総括的なものとした方がよい。
- ・執筆分担は、既存資料収集整理・適用性の検討と、香取現地実験で分け、それぞれ以下の分担とする。
 - ① 既存資料収集整理・適用性の検討
菊池委員長、須々田委員、高田委員、西村委員、室山委員、平林幹事(6名)
 - ② 香取現地実験
岡委員、後藤委員、神宮司委員、谷本委員、宮坂委員、利藤委員(6名)
- ・フォーマット案は、以下を変更、追記した方がよい。
 - ① 左右余白は、左を広く、右を狭くする。
 - ② 文字の大きさは、10.5ptとする。
 - ③ 数字は半角で統一する。
 - ④ 段組みは、学会の講座執筆要領を参考にする。
 - ⑤ 図、表は、図(表) -○.○.1、-○.○.2・・・とする。
 - ⑥ 写真は、写真-○.○1・・・とする。